

原 著

看護学生の卒業年次の学習の支えに関する研究 —国家試験に対するアンケートを通じて—

新潟県厚生連中央看護専門学校；専任教員¹⁾、新潟県厚生連中央総合病院；看護師²⁾、
新潟大学大学院保健学研究科；准教授³⁾

土田 直人¹⁾、富永 恵¹⁾、高橋 由香²⁾、親松 善靖¹⁾、井上 智代³⁾

目的：学生が常に国家試験を意識することは極めて困難である。今回卒業期に国家試験対策指導部が行ったアンケートの結果から、学生の学習を支えたことは何かを明らかにする。

方法：2022年3月に看護師国家試験受験後の卒業前アンケートから収集した。アンケートよりキーワードを抜き出し、抽出した文章を分析しコード化し分析する。

成績：分析した結果、147のキーワードから32のサブカテゴリー、16のカテゴリーを抽出した。これより学生が支えとしていたことが明確になった。

結論：支えの具体は多様であった。取り組みとして安心して信頼できる環境の提供と、個別に合わせた支援が必要である。

キーワード：看護学生、国家試験、学習の支え

緒 言

当校は、看護師養成所3年課程として人間の生命と個々の人格を尊重し、その人らしい生活を支えられるよう、科学的根拠に基づいた高度専門医療から在宅医療までの幅広い分野で地域医療の担い手となる看護師を育成することを目的として看護教育を行っている。卒業前に行われる「看護師国家試験」は、看護師として今後就労していこうと考える学生にとって資格取得のための必須条件である。学生が看護師国家試験に不安なく臨めるよう支援が必要であると考え、本学の教員の中で国家試験対策指導部を立ち上げた。特に3年次は、1年間を通して臨地実習に加えて看護師国家試験の学習もしなければならない。この学習を支援するのが国家試験対策指導部の役割である。国家試験対策指導部では1年間の学習スケジュールの管理、模擬試験の計画、実施と結果を踏まえた学習の指導を行っている。

国家試験対策指導部が発足して5年が経ち、試行錯誤しながら看護師国家試験の全員合格を目指して活動を行ってきた。そのような中、国家試験対策指導部のメンバーから「学生は看護師国家試験の学習を進めるにあたって、学生からの声や様子を見てみると、決してひとり頑張り、乗り越えるのではなく、何かに支えられて乗り越えるのではないか」という声が聞かれた。そこで、これまでの看護師国家試験対策についての文

献を概観することとしたが、グループ学習やゼミ学習を取り入れた論文(1、2)、国家試験対策内容の振り返りについて記述された論文(3)など、主に「方法論」や学習方法の工夫に着目した文献がほとんどであった。

そこで、本研究では看護学生はどのようなことを支えに学習し、国家試験当日を迎えたのか明らかにしたいと考えた。今回卒業期に国家試験対策指導部が行ったアンケートの結果から、学生の学習を支えたことは何かを明らかにしたため報告する。

対象と方法

1. 研究期間：2022年3月
2. 対象者：A看護専門学校（3年課程）の3年生58名
3. データ収集方法

看護師国家試験受験後に卒業を目前とする3年生に対して、国家試験の学習を行っていくうえで何が学習の支えになったのか、研究の協力の得られた学生に対して、自記式アンケート（自由記載による）調査を行った。

4. 分析方法

データは卒業生から使用の同意を得たのち、グレックの質的記述的分析(4)を参考に、アンケートの記述内容から学生の学習の支えについて記述されている文脈を抽出、コード化した。その際、内容の漏れなどがないようにするために、複数人で確認しながら作業を行った。さらに、共通性や類似性に基づいてサブカテゴリー化、カテゴリー化した。分類は複数人で行い、検討と修正を重ね研究の妥当性に努めた。

5. 倫理的配慮

研究の目的および方法について、書面および口頭にて説明し、協力をしない場合にも不利益が生じないことも説明したのち、同意を得て分析を行った。なお、アンケート集計の際には個人が特定されないように配慮した。なお本研究は厚生連長岡中央総合病院倫理委員会の承認を得て行った。

結 果

分析した結果、147のキーワードから32のサブカテゴリー、16のカテゴリーを抽出した。

さらに、5つのタイトルに分類した(表1)。以下に5つのタイトルについて結果を述べる。

学習の支えを示すタイトルを(), カテゴリーを【 】、サブカテゴリーを〔 〕、コードは「 」で示した。

1. <本人に関すること>
「みんなが一生懸命勉強している姿をみて」や「教員の期待を裏切るようなことはしたくない」等の、学生自身が友人、親、教員に対して思っていること、感じていることが支えになっていた。また、「国試に落ちてしまったら、3年間頑張った意味がなくなる」や「夢だったから」などの自分自身の思いが支えになっていた。
2. <家族に関すること>
「家族からの励ましの言葉がけ」から家族が応援してくれていることを支えと感じていた。
3. <友人に関すること>
1. との違いは、友人との関わりが支えになっている点である。「一緒に頑張ろうと言ってくれる友人」や「友人と一緒に学校で勉強したこと」など支えてくれる友人の存在が支えになっていた。また、1人で息抜きをしたという学生はおらず、息抜きは友人とすることで良い気分転換になり、学習の支えになっていた。
4. <教員に関すること>
面接や気遣い、言葉などが、原動力となっていた。また、学習面でのおおよその予定や現時点での目標到達度、学習示唆などを行ったことを支えにしていた。
5. <社会資源に関すること>
「成績不振者の呼び出し」「呼び出されるのが嫌だなと思った」と学習の継続を目指して、国家試験対策指導部がしてきたイベントや息抜きに、反応する学生も多かった。
年間で複数回行った模擬試験を現状や苦手分野の把握に使用し、さらに繰り返し学習する材料にしたことが学習の支えになっていた。
アプリを使うことで、時間などの目に見えないものを可視化し、やる気につなげていた。また、コロナ禍において友人との時間が減っていると思われるが、SNSを通じて思いを共有しており、これも学習の支えになっていた。この中でも、十分に感染予防に注意し学校に来ることで、人的、物的環境を整えたことも支えであった。
友人と支えあう環境や集中できる環境、学校のムードが支えとなった学生が多かった。

考 察

学生にとって学習の支えはやる気に繋がったり継続に繋がったりするであろうと予測をしていた。また、嬉しいことは支えになるであろうと考えていたが、予想していなかったことも支えになっており、その具体は多様であった。以下、教員の介入が可能だと思われる、【本人に関すること】【家族に関すること】【教員に関すること】【社会資源に関すること】の4つを考察する。

1. <本人に関すること>
学生は看護学校に入学した時点で、教育理念や教

育目標にもとづいて作成された、教育課程により、成長していく。当校の、教育目標には「専門職業人としての自覚と責任をもち、自己の肉体的成長・発達と看護を探究する主体的学習姿勢を養う。」というものがある。【自分が決めたルール】【在学中の頑張りの意味】【夢の実現】など、自立した1人の成人として、自己の肉体的成長を遂げていることが何え、入学時からすでに3年次の学習はスタートしているといえる。

2. <家族に関すること>
家族は友人や教員とは違い、血のつながりがあり常に安定している相手である。自分の味方で居続けてくれた対象であり、金銭的にもサポートをしてくれている存在でもある。隅田ら(5)は、信頼できる他者としての家族から、学生が受ける支援について「話しやすい、相談しやすいなどの情緒的な支援やほめてくれるような評価的支援、助言をくれるなどの情動的支援」を具体的に挙げている。したがって、保護者会等で、国家試験に向けた家庭内での学習支援や励ましについて話題にしていけることも大切であると考えられる。
3. <教員に関すること>
対象学生は、コロナウイルス感染症による行動の制限から学校生活での様々な体験や経験で気づいた学生である。新しい体験をする機会が稀少であった学生であるため、教員のちょっとした支えがとても力強く感じたのではないかと推察する。サブカテゴリーの「学習の指示をもらった」では、時期や模擬試験の点数、苦手分野など個別的な状況を踏まえ、国家試験対策指導部の教員が学習の示唆をしてきた。「その時期に何をすればよいのか道しるべとなって良かった。」という声からも、学習の原動力になっていると考える。これらを通して「面接や気遣い」に代表される「ダメな自分を見捨てないでくれた」や「いつも前向きな言葉をくれた」に繋がっている。不安が強い学生にとって、安心を与えてくれる第三者の存在は学習継続に重要であった。玉木は学習方法を高める方法として、「学生が安心して学習できる環境づくりが求められる」とし、更に「明確な目標設定や指示があること、安心して発言できる場、ポジティブな評価、優しく丁寧なアドバイスなどが考えられる。」(6)と述べている。指示通りの学習ができたことや認めてくれていることに安心し、自信をつけていくという経験ができたのではないかと推察する。
4. <社会資源に関すること>
学生は、模試やSNSの活用を通して自己の学習量や得手不得手を可視化している。これにより効率よくまた、学習へのやる気を削ぐことなく学習継続ができていた。また「夕活や夏の学習会があったこと。」や「神社で買ってきてくれた御守りに毎日触って祈った。」など「国家試験に向けた学校のムード」に乗せられているが、近年の学生の楽しいことが好きである点を学習継続につなげられたと考える。さらに、「毎日学校に来るのは大変だったけど、勉強できる環境が作られているためすぐ集中できた。」など、学校を上手に活用している。三木は、学習していく上で大切なことは、「ポジティブな気持ちで学習を進めていくこと」(7)と述べている。学生の気質や状況に合わせて支援方法を変化させていくことがポ

ジティブな気持ちにさせていくことに繋がる。
なお本研究は、2022年度新潟県厚生連看護部研究発表会で一部内容を発表した。

文 献

1. 田辺洋子、森田桂子、渡部幸子他. 看護大学生の国家試験に対する学習意欲の向上に向けたA大学の取り組み グループ学習を取り入れて. 了徳寺大学研究紀要 2023 ; 17 : 41-51
2. 植屋よしの、三ツ野佐代子、上田平昌代他. 【効果的な看護師国家試験対策をしよう】ゼミ学習を取り入れた看護師国家試験対策. 看護人材育成 2022 ; 19(5) : 66-71.
3. 藤澤由香、木地谷祐子、蘇武彩加他. 本学の看護学部における看護師国家試験対策の取り組み 看護師国家試験対策内容の振り返りと学生アンケートの結果からの考察. 岩手県立大学看護学部 紀要 2022 ; 24 : 117-25.
4. グレック美鈴. よくわかる質的研究の進め方・まとめ方 看護研究のエキスパートをめざして. 東京 : 医歯薬出版株式会社 ; 2016. 54-72頁
5. 隅田千絵、細田泰子、星和美. 看護系大学生の臨地実習におけるレジリエンスの構成要素. 日本看護研究学会雑誌 2013 ; 36 : 64.
6. 玉木敦子 : 今どきの看護学生をどう育てるか. 神戸女子大学看護学部紀要 2017 : 1-10.
7. 三木研作. 看護師国家試験合格を意識した能動的学習支援. 日本赤十字豊田看護大学紀要 2019 ; 14 : 26.

英 文 抄 録

Original Article

Study on Learning Support for Nursing Students in Their Graduation Year — A Questionnaire Survey on Support for the National Nurse Examination —

Niigata-kouseiren Chuo Nursing School; Full-time Teacher¹⁾, Niigata-kouseiren Chuo General Hospital (Kouseiren Means Niigata Prefectural Federation of Agricultural Cooperatives for Health and Welfare); Nurse²⁾, Graduate School of Health Sciences, Niigata University; Associate Professor³⁾ Naoto Tsuchida¹⁾, Megumi Tominaga¹⁾, Yuka Takahashi²⁾, Yoshiharu Oyamatsu¹⁾, Chiyo Inoue³⁾

Objective: Nursing students have significant difficulty in always being mindful of the national nurse examination. The results of a recent survey conducted by the Department of National Examination Support before graduation were examined to determine what was effective learning supports for students.

Study design: Statements were collected from pre-graduation questionnaires completed by nursing students after they took national nursing exam in March 2022. Keywords were identified and extracted from the received questionnaires. The collected statements were examined, coded, and analyzed.

Results: The analysis identified 16 support categories and 32 support subcategories from 147 keywords. It highlighted what effectively supported the students.

Conclusion: The students identified many different supports. The result shows that personalized supports should be provided in combination with reassuring and trustful environment.

Key words : Nursing students, national nurse examination, learning support

表1. 学習の支えに関するカテゴリー

タイトル	カテゴリー	サブカテゴリー
本人に関すること	友人の存在が原動力	友人の学習への取り組みを見て焦った
		友達が頑張っているから頑張ろうと思った
	自分が決めたルール	目に見える達成感があった
		勉強ができると思い込んだ
		勉強と休憩のオンとオフを決めた
	在学中の頑張りの意味	自分の3年が無駄になってしまうと思った
	夢の実現	看護師になりたい
教員の願いへの気づき	教員からの自分たちにかける熱い思いを感じた	
終わった後のご褒美	国試が終わってからの楽しみを想像した	
家族に関すること	家族が協力してくれた	親の支えの感じた
		家族が応援してくれた
友人に関すること	一緒に頑張った友人の存在	友達といると安心して勉強できた
		一緒に頑張ろうと励ましあった
	支えてくれる友人の存在	一緒に頑張ろうと言ってくれた
		入学前からの友人の支えを感じた
友人との息抜き	友人と居ることで気分転換になった	
教員に関すること	教員の関わりが原動力	ダメな自分を見捨てないでくれた
		いつも前向きな言葉くれた
	教員からの示唆	学習の指示をもらった
社会資源に関すること	模試の活用	成績不振者の呼び出しに应答する
		再試の実施で理解が深まった
		模試で苦手分野を把握する
		模試で現状を把握する
		模試で沢山の問題に触れて、学習の材料になる
		模試結果が自信に繋がる
	SNSの利用	SNSで境遇が同じ人の閲覧
		アプリで学習量を可視化する
		アプリでの学習時間の共有
	学習するにあたっての環境	集中できる環境があった
		友人と支えあう環境があった
		国家試験に向けた学校のムード
	受け持ち患者の存在	受け持ち患者の思いを受けとめる